

指導行政のポイント

“自尊心”をどう高めるか

菱村 幸彦

日本の高校生は、他国に比べて際立って自尊心が乏しい。そんな調査結果が公表されて話題となっている。

4カ国調査で日本が際立って低い

本年3月、財団法人「日本青少年研究所」は、「高校生の心と体の健康に関する調査」(以下「本調査」)をまとめた。本調査は、日本・米国・中国・韓国の4カ国の高校生男女約7,000人を対象に、運動、体型とダイエット、食事と睡眠、喫煙と飲酒の経験、自己評価などについてアンケート調査を実施したものである。

本調査のなかで特に注目されるのは、日本の高校生の自尊心が他国の若者に比して、際立って低い結果が出ていることだ。

本調査の自己評価に関する質問と回答は、概略、次のとおりである。

〔問1〕私は価値のある人間だと思うか。

この問に、「そう思う」と答えたのは、米国57.2%、中国42.2%、韓国20.2%、日本7.5%である。米国や中国の高校生は、約5割が自尊心を持っているのに、日本の高校生は1割にも満たない。

これに「まあそうだ」を加えると、米国89.1%、中国87.7%、韓国75.1%、日本36.1%である。米・中・韓の高校生の7～9割が自己肯定的であるのに、日本の高校生は、4割に達せず、6割が自己否定的である。

〔問2〕自分に満足しているか。

この問いに、「全くそうだ」と答えたのは、米国41.6%、中国21.9%、韓国14.9%、日本3.9%である。これも日本が極端に低い。

これに「まあそうだ」を加えると、米国78.2%、中国68.5%、韓国63.3%に対して、日本は24.7%しかない。日本の高校生で自分に満足しているのは3割に満たない。

〔問3〕自分が優秀だと思うか。

この問に、「全くそうだ」と答えたのは、米国58.3%、中国25.7%、韓国10.3%、日本4.3%である。やはり日本が際立って低い。

これに「まあそうだ」を加えると、米国87.5%、中国67.0%、韓国46.8%、日本15.4%である。日本のほとんどの高校生は自分の能力に否定的である。

自尊心は学びの土台

なぜ、日本の高校生はこれほどに自尊心に乏しく、ネガティブな自己像を抱いているのか。

国際比較調査で気をつけなければならないことは、自己表現についての国民性の違いである。一般的に米国や中国では、子どものうちから自分のよい点をはっきり表明することが評価される。一方、日本では、自分のことには控えめで謙虚であることが美德とされる。そうした国民性の違いが、上記のような質問では、実態以上の差異となって表れる可能性がある。

しかし、それを割り引いても、日本の高校生の自尊心や自己肯定感の低さは際立っている。東京都教職員研修センターの調査によると、自尊心は、小学校から中学校1年生まで次第に低下するが、中学校3年生で上昇し、高校で再び低下する傾向があるという。

自分自身をかけがえのない存在だと思い、自分のよさに気づき、自分に自信をもっている生徒は、勉強や部活動でもいい成果をあげる。よい人間関係も結べる。困難な状況に出会ってもくじけない。全国学力調査の分析でも、自尊心と学力に相関があることが明らかになっている。

中央教育審議会の答申では、自尊心の重要性を指摘し、児童・生徒の自尊心を高める取組みを促している。学校教育で児童・生徒の自尊心をどう高めるか。今後の学校教育の重要な課題の1つである。

(ひしむら・ゆきひこ = (財)学習ソフトウェア情報研究センター理事長)

●好評新刊発売中！ 新教育課程(小・中学校)で学ぶべきポイントを明示！ A5判/208頁/定価2520円

『言語活動モデル事例集』 水戸部 修治(文科省教育課程課調査官)【編】

研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、無料FAX 0120-462-488をご利用ください(24時間受付・即日発送)